

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

民政クラブ

代表者名

井町圭孝

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 5 年 2 月 20 日提出

活動年月日	令和 5 年 1 月 10 日 (火) ～ 1 月 12 日 (木)	
氏名	10日～12日参加：加藤学、柴田敏光、佐藤哲朗 11日～12日参加：井村伸幸、加藤嘉哉	
用務先 及び 内 容	1	用務先 兵庫県西宮市
	1 月 10 日	内 容 議会BCP発災時の議会行動マニュアルについて
	2	用務先 兵庫県姫路市
	1 月 11 日	内 容 水道事業におけるスマートメーターによる自動検針 について
	3	用務先 広島県福山市
	1 月 11 日	内 容 令和の大普請プロジェクトについて
	4	用務先 京都府京都市
	1 月 12 日	内 容 京都市南部クリーンセンター環境学習施設 さすてな京都について
備 考		



委員会・会派名	加藤学、佐藤哲朗、柴田敏光（報告者）
研修日時	令和5年1月10日（火）13:30~15:00
視察先・概要	兵庫県 西宮市（令和5年1月1日現在） ・人口 484, 129 人 ・世帯数 218, 936 世帯 ・面積 100. 18km² ・人口密度 7, 694 人/k m²
視察内容	議会 BCP 発災時の議会行動マニュアルについて
選定理由（目的）	岡崎市議会として、議会 BCP 策定を進めている中、西宮市は阪神淡路大震災を基に策定されており参考とするべき内容があるとして選定した。
岡崎市の現状と課題	本市は、震災については基とする事例等がなく想定を進める事となっている。阪神淡路大震災、東北地方太平洋沖地震等参考として進めていかななくてはならない。
研修概要及び評価	議会運営の課題に関する検討会議 【対応要領で見直しが必要な項目】 ① BCP が対象とする災害の具体的規模の想定 ② 議会棟が倒壊した場合の対応 ③ 議長、副議長に事故があった場合、連絡の取れない議員が生じた場合の対応 ④ 例えば、発災から3日目までを初動期、発災4日目から7日目までを中期、発災後8日目から1か月目までを後期として、発災からの時間の経過で段階分けをして、それぞれの段階での議会、議員の具体的取り組み内容についての取り決め ⑤ 議員が自治会長や消防団、消防分団、自主防災会の役職に就いていることも想定されるが、議会・議員としての活動、役割が求められるときは、他の役職の業務と競合する場合も、議会としての業務を最優先すべきことの取り決め ⑥ 迅速、効果的に復旧・復興を進めるための予算措置や住民の声を伝える機会として、市当局と協議を行うための場を設定するための取り決め ⑦ 安否確認等の連絡手段として情報端末（タブレット・スマートフォン）が使用できない場合とできる場合の対処方法に関する取り決め ⑧ 災害時における議長の権限強化、市長と密接に協議すること 以上の項目は西宮市として見直しがされた内容であり参考すべきものとする 西宮市議会 B C P の概要 ・目的 ① 議会は市と連携し、災害対策活動を支援する ② 議事・議決機関、住民代表機関として、迅速な意思決定と多様な住民ニーズを反映する ③ そのために必要となる執行体制、資源の確保、議員の行動基準を議会 B C P に定める ・議会の役割 ① 災害発生時には、応急・復旧・復興に向け、必要な議案を速やかに審議する。 ② 市民の意見、要望等を踏まえ、市の行う応急・復旧・復興活動が迅速に進むよう、議会として提言・提案を行う 以上、基本的な B C P の策定する目的



坂上議長



但馬次長



新田課長



視察状況



視察調査を終えて

【質疑応答】

加藤学：作成にあたっての執行部との調整は？

⇒毎回出席しているわけではないが、執行部の意見をまとめて伝えている。
市職員オブザーバー参加もあり。

加藤学：災害が起きた場合に議会の対策本部をたちあげ、議員が現地の状況把握？

議会で調査？議員が持っている情報を報告？

⇒それぞれの議員が地元の情報を議会の本部に情報を集約して市の本部に連絡

柴田：実際に起きた時に議員として何をするべきなのか？

情報を議員としてあげていく、市も BCP 立ち上げる

議員の情報と町内会からの情報がダブルなど混乱を招くことが不安

⇒議会行動マニュアルに、時制に応じて議員の対応を記載してる。

議員は議会を開けるように

本部役員は集まってもらうが、それ以外は集めない。

議運、会派代表は議会側で、それ以外は地元で活動

自治会との関係は、被災状況を防災情報システムで集約できるようになった。

議会側へ、その内容が共有できていない？

情報はリストアップされて、解決・対応中など表示されるので、区別は可能

柴田：地域に複数の議員がいる場合の関係性・取り決めなどあるのか？

⇒議員の構成は選挙の度に代わるのでそこまで想定はしていないが、
内容によって、避難所に対応できるのか本部に言う必要があるのか判断でよい

柴田：本部から河川確認、けが人の調査などの依頼はあるのか？

⇒市から議員にそういった指示をする予定はない。

調査している内容の状況などの情報が確認できるようになっている。

柴田：無所属議員はどのようになっているのか？

⇒無所属だからといって会議に参加しないのはどうか？との論議あり。

感染症版では無所属議員を代表して参加する形としている。（年長議員が代表）

地震版は改正未

柴田：情報のフィードバックはどのようにされるのか？

⇒各議員が集めた情報を事務局にメールで送って、1 日分をまとめて議長に渡し、
整理して市の対策本部に連絡
急がないけれども文章で回答を議員に帰す。

佐藤：防災情報システムは？

⇒議員によって付度しないように、名前非表示？

防災情報システムはまだ議員サイドにはリリースされていないので確認できない。

本部役員は参集とあるが、それ以外の議員は地元で災害の発生状況を連絡するため、
参集はしない

佐藤：発災時の対応として常任委員会・本会議の開催に関する条件の見直しなどある？

⇒大阪北部地震、議会中だった。参加できない職員はいたが、議員は出席できた。

近隣の議会は開かない議会もあったが、西宮市は開催した。

佐藤：防災服・ヘルメット等、廃止したのはなぜか？

⇒予算削減でもない。議員からの意見でこうなった。

ベテラン議員はサイズ合わずに着られず。

本市への反映
(意見・課題など)

【柴田敏光】

西宮市、議会 BCP 発災時の議会行動マニュアルについて調査させていただいた。議員の取るべき行動、役割など説明を受けた。地震発生時と感染症発生時と 2 本立てで作成されている。

すみ分けされていることで、議員の行動がわかりやすく明確となるので、本議会としても取り入れる必要があるのではないかと考える。

執行部側も BCP の立ち上げを進めているということであり、本市も議会と執行部側で調整していくと実際直面した時にスムーズに役割などが明確になるのではないかと考える。

無所属議員については、無所属の年長議員が代表役員として会議に出席するようになっているとのことである。本市も明確にしておく必要があると考える。

【加藤学】

現在、特別委員会にて策定検討がされているが、策定済みの「市議会災害等対策会議設置要綱」や「市議会災害等対応マニュアル」などとの関連性・整合性、そして、本市においても「新型インフルエンザ等対策編」が策定されていることから、同様な検討が望まれ、執行部との連携協議が必要と思われる。

【佐藤哲朗】

西宮市では阪神淡路大震災の経験も踏まえて、比較的早い段階から議会 BCP の準備をしており、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、感染症版の議会 BCP も策定されている。発災により、議会棟が使用不能な場合においても、議会の機能を継続させることを目指して、議会 BCP や議会行動マニュアルが策定されていた。

また、被災状況の把握のために、防災情報システムを導入し、議員・一般市民からの情報を一括して把握し優先順位を付けて対応できるようにしていく準備をしているとのことで、大変興味のある内容に取り組まれていることがわかった。

岡崎市においても、議会 BCP 策定のため特別委員会を設置したが、先行して取り組んでいる内容を折り込んで、よりよい BCP としていく必要がある。

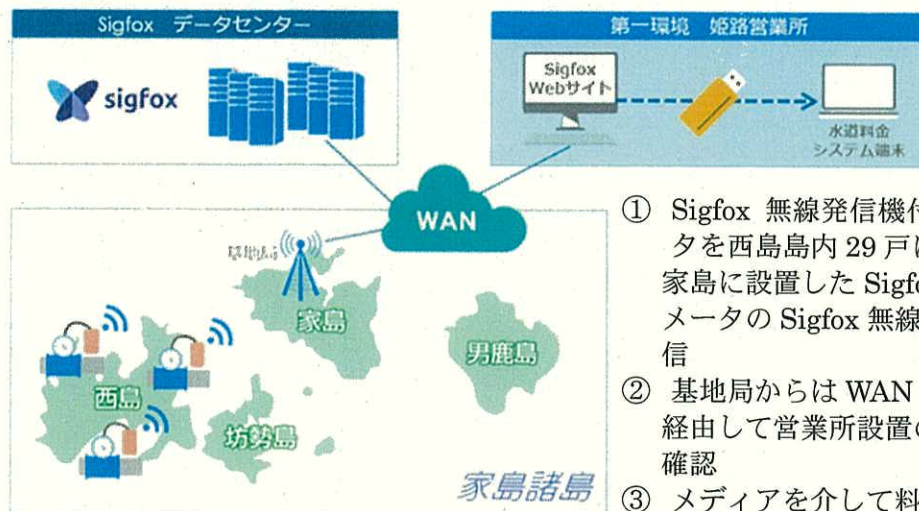
視 察 者	加藤学・柴田敏光・井村伸幸・加藤嘉哉・佐藤哲朗
視 察 日 時	令和5年1月11日(水) 10時00分～11時30分
視 察 先・概 要	兵庫県姫路市 ・人口:53,0495人 ・世帯数:224,106世帯 ・面積:534.35km² ・兵庫県の南部のほぼ中央に位置し、日本初の世界文化遺産に指定された国宝姫路城をはじめ数多くの歴史的建造物や文化遺産を保有。令和3年5月には内閣府より「SDGs未来都市」に選定され、グローバル人材の育成やグリーン化によるSDGsを推進。令和3年3月には「ゼロカーボンシティ」を宣言し、姫路城における場内使用電力の再生可能エネルギー100%への切り替えなど「ゼロカーボンキャッスル」を推進。
視 察 内 容	「水道事業におけるスマートメーターによる自動検針」について
選定理由(目的)	一般的な水道検針では、検針担当者が各戸を回りながら検針作業が行われるが、離島などの難検針地域では各戸訪問による負荷が大きく、民間企業との協業により自動検針の実用化を実現した姫路市の事例を、中山間地域を抱える本市における検針業務の負荷軽減にもつながる検針の自動化に向け参考とする。
岡崎市の現状と課題	中山間地区など家屋が点在している地域においても水道の検針業務は必要であり、時間と労力を要するものの、現地確認を余儀なくされている
視 察 概 要	【姫路市における水道無線自動検針の概要】 1. 水道検針が抱える課題 (1) 遠隔地や難検針箇所への対応 (2) 検針員の確保 (3) データ利活用と社会的ニーズ対応 2. 課題解決に向けた取り組み ○姫路市には離島地域である大小44の島々からなる家島諸島があり、家(いえ)島、坊勢島(ぼうぜ)島、男鹿(たなが)島、西島の4島に約5,000人が居住 ○離島への水道供給は海底送水管により給水 【海底送水管の概要】 赤穂市～家島(S59 布設 φ300 L=13.4km ポリエチレン被覆鋼管) 家島～坊勢島(S59 布設 φ200 L=1.2km 特殊ポリエチレン管) 坊勢島～西島(S59 布設 φ75 L=0.6km 特殊ポリエチレン管) 家島～男鹿島(H12 布設 φ150 L=2.4km ポリエチレン被覆 SUS 管) ○一般的な水道検針では、検針担当者が各戸を回りながら検針作業を実施。市内であれば、約300件/日の検針が可能だが、離島などの難検針地域では定期航路や公用船を利用し、各戸を訪問するため、天候に左右され、時間もかかり検針自体の負担が大 ○H27 家島、坊勢島の検針業務を民間に委託(委託先:第一環境(株))。西島のみ本土とを結ぶ公共交通機関の定期航路が無いことから、水道局員が2ヶ月に1回、3名で公用船を使用し外周を回って検針。 H28に西島、男鹿島の検針業務も民間委託したことを契機に、委託先よりスマートメータ導入による自動検針の提案あり。 ○H29に第一環境(株)、京セラコミュニケーション、KDDI、アズビル金門の4社により構成されたSigfox自動検針コンソーシアムが、自動検針システムの実証実験及び本格稼働を開始 ○LPWA(Low Power Wide Area^{※1})としてSigfoxを採用 Sigfox 採用理由:非常に低速ながら低消費電力であり、長距離伝送が可能のため ※1.「省電力かつ長距離での無線通信が可能」という特長をもった通信技術の総称



説 明 風 景

3. Sigfox 自動検針

(1) 自動検針の概略



- ① Sigfox 無線発信機付き電子式水道メータを西島島内 29 戸に設置。
家島に設置した Sigfox 基地局にて各戸メータの Sigfox 無線機からの電波を受信
- ② 基地局からは WAN・データセンターを経由して営業所設置の PC でデータを確認
- ③ メディアを介して料金システム端末にデータ取り込み

(2) 自動検針イメージ



Sigfox無線発信機付き電子式水道メータ
(アズビル金門鋼製)



水道メータの設置施工例

4. 期待される効果

(1) 費用対効果

現地訪問検針	LPWA自動検針
・検針員の労務費 ・ハンディーターミナルシステム ・定期船とチャーター船の費用	・電子メータ、無線発信機、設置費用 ・ネットワークサービス費用 ・お知らせ票郵送費

(2) その他の効果

- ① 毎日指針値(使用水量)データ確認可能
 - ・無断転居(使用開始)や漏水の早期発見
 - ・見守りサービスなどへの活用展開
 - ・水需要などの基礎データとしての活用
- ② 現場訪問不要
 - ・サービス向上: 敷地・建物への立ち入り不要、未検針撲滅
 - ・業務事故リスク回避: 悪天候時のトラブル、交通事故など

4. 主なQA

Q1. 姫路市は離島だけでなく、山間地もあるが、山間部への設置予定は？

	A1. 谷筋ごとに集落があり、検針時の移動も大変なため、必要性は感じている。ただ、地域によっては携帯の電波が届かないところもあることから、現在のところ進展はない。 Q2. 本土と自動検針を導入した離島とでは水道料金の設定は異なるのか？ A2. 合併した当初は水道料金の設定に差はあった。ただ現在は同一料金としている。 Q3. 委託先としての第一環境株式会社への年間予算はいくらか？ A3. 自動検針システムだけでなく通常の一般検針も併せての委託のため、全体で約4億8千万円。 Q4. 離島への給水のための送水管が老朽化しているのではと考えるが、万が一に備えての貯水施設はあるのか？ A4. 貯水施設はないが、遮断弁はある。漁協との協定で、以前は赤穂市から給水船で供給していた。海底送水管は設置後約40年が経過しているが、現在までに漏水なし。 Q5. 自動検針システム導入における他の自治体にての第一環境(株)様の実績は？ A5. 横須賀市の住宅において実証実験の実績はある。本格的に移働してデータを料金請求につなげるのは姫路市が初。他社の事例では倉敷市・今治市・塩釜市の離島などここ数年で拡大している。また、豊橋市や湖西市のように電気ガスの協働事業検針などの事例も増えてきている Q6. 無線機の互換性の有無は？ A6. 水道メーターメーカー(愛知時計・東洋計器・カシオなど)のデータは共通の電文仕様で飛ばされているため、愛知時計のメーターに東洋計器の無線機をつなげることは可能。ただ、各社独自のサービス(共通の電文+αサービス)を展開されていることから、このα部分の電文を受ける点で互換性はない。愛知時計の送信データは愛知時計のクラウドでしか受信できないということになる。
本市への反映 (意見・課題など)	【井村】 検針業務の効率化につながる自動検針システムだがスマートメーターの単価が非常に高いことから、市内全域において、自動化を進めるためには、コストダウンが最優先課題と考える。(東京都水道局が令和6年度までに約13万個のスマートメータを設置し、導入効果の検証を行うこととなっており、メーター単価の引き下げもありうるとのこと。) 本市においても中山間地域など世帯が点在し、検針業務に時間を要する地域においては有効な施策の一つと考える。加えて、近隣の豊橋市や湖西市では検針員の高齢化や新規検針委員確保の困難化、人件費の上昇などの懸念事項を解消するための方策として水道・電気・ガスの検針を共同で自動化する取り組みを開始していることなどからも今後を見据えた取り組みも必要と考える。 【加藤(学)】 近年の姫路市の検針業務は、概ねの地域の検針を業者委託とし、離島検針については直営で行っていた。しかし数年前より離島検針についても業者委託をすることとなるが、あまりにも困難なため、委託業者によるスマートメーターによる自動検針が始まったもので、この事業は委託業者の自主事業的なものであると考えられる。詳しい費用的な説明は得られなかったが、市の事業として実施するには費用対効果からするとまだまだ難しいと感じた。 【柴田】 姫路市の水道事業におけるスマートメーターによる自動検針について調査を行った。合併を行った事で離島を管理することとなり、検針を行うにあたりチャーター船で船着き場のない離島に検針業務を行わなければならないということである。業務が非常に時間、労力など負担になっていることから、委託業者による無線通信方式で検針を行う方

式を取り入れた。無線発信機付き電子式水道メーターを設置することで、本島基地局で検針業務が行える。

ただ、中心市街地などは人による検針の方が安価で検針が行えるので不向きであるが、離島には効果ありということである。本市も合併による中山間地区については、山間部に一軒だけまた、点在した地域については検討する事は行なうべきではないかと考える。

【加藤(嘉)】

姫路市にて取組んでいる水道事業におけるスマートメーターによる自動検針については、それまで離島における検針業務に多大な費用と工数がかかっており、その問題を解消する為に委託業者による無線通信による自動検針を導入した。費用面での効果についての詳細はまだ明確ではないが、山間部については導入の検討になりえるとの事。一方、中心市街地での検針業務については、現状の人による検針の方がコストがかからないとの事から、本市での取組については、様々な角度からの検討が必要であると考ええる。

【佐藤】

姫路市におけるスマートメーターは検針に多大な工数と費用がかかる離島限定して導入していた。スマートメーターのコスト、アンテナの設置を含むシステム全体の費用から考えれば、通常の市街地においては人による検針が低コストであり、今後の展開としては山間部の住宅が谷筋に散在している山間部は検討対象になるとのこと。

岡崎市においては、中山間部も多くあることを踏まえ、将来のスマートメーターの普及やイノベーションによる必要なコストの低減が図られるであろうことを想定し、調査研究に努めていく必要がある。

委員会・会派名	民政クラブ：加藤学、柴田敏光、井村伸幸、加藤嘉哉、佐藤哲朗
視察日時	令和5年1月11日（水）14：00～15：30
視察先・概要	広島県福山市（令和4年4月末現在） ・人口：461,718人　・世帯数：213,191世帯　・面積：518.14km ²
視察内容	福山城築城400年記念事業「令和の大普請プロジェクトについて」
選定理由（目的）	2022年は1622年に福山城が築城されて400年の年である。福山城の歴史的文化資源の価値や魅力を再認識し、磨き上げ「城がある福山」を発信している。
岡崎市の現状と課題	2023年大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせて岡崎城の展示改装、天守外壁塗装が行われているが、これからも岡崎市のシンボルであり続け、市民に親しみ愛され、更なる素晴らしい観光スポットに向けた壮大な岡崎城跡整備事業が望まれる。
視察概要	福山城築城400年記念事業 ■令和の大普請 ①天守外観復元「全国唯一の北側鉄板張りを復元」 城門や城郭建物の入口に鉄板を張ったものは日本各地にあるが、天守の壁一面に鉄板を張ったものは福山城天守が唯一。令和の大普請では、残された古写真や他城の鉄板の調査、寄贈を受けた往時の鉄板との比較検証などを行い、鉄がもつ素材感などを再現するとともに、安全性・再現性に配慮した復元的整備が行われた。また、窓の配置や狭間の再現も行われた。 ②ライトアップ「美しい夜の福山城を石井幹子さんがプロデュース」 世界的に有名な照明デザイナーの石井幹子さんを監修に迎え、2017年から夜間照明を整備。伏見櫓や御湯殿、月見櫓、狭間、美術館プロムナードに続いて、天守や鏡櫓、鐘櫓にもあかりが灯る。また、福山城東側石垣のライトアップも整備された。環境や省エネルギーにも配慮した、人とまちを明るくするライトアップである。 ③福山城博物館 展示リニューアル「歴史を体験できる体験型展示が多数」 福山城の大規模改修に伴い、福山城博物館も1966年に福山城が再建されて以来、初となる大規模リニューアルを実施。福山城と福山藩の歴史を学ぶことができる展示内容に特化し、クイズコーナーや体験型コンテンツも充実。壁面を活用した大型3面シアターなど最新のデジタル技術で、よりエンターテインメント性が高い展示へと生まれ変わった。また、エレベーターの設置により利便性も向上した。 ■福山城築城400年記念基金「みんなでよみがえらせよう 福山城の魅力」





・約 7,400 人の個人、約 260 の個人・企業から 11 億 5 千万円を超える寄附

■築城 400 年後の活用

・城泊、M I C E 会場、ナイトタイムエコノミーを活用した四季を通じたイベント開催 ⇒ 観光誘客 ⇒ 賑わい創出、南北の回遊性の向上

■福山城公園（史跡福山城跡）樹木整備計画 2018（平成 30）年 4 月策定

◇基本的な考え方

福山城の石垣や埋蔵文化財などの遺構の保全・福山城のシンボル性を高める景観整備・都市公園にふさわしい緑地空間の創出と保全を図るため将来を見越した植栽整備（植生管理）を行う。

- ①天守閣や城門等に近接し、それらの保存管理に影響を及ぼす樹木等は適宜伐採等により史跡の保全を図る。
- ②福山城天守閣は、福山市を代表する景観を担っていることから、本来あるべきこれらへの眺望点を再認識し、その視界を遮る樹木の伐採等により景観を整備する。
- ③樹木の伐採・剪定後の福山城の景観・周囲の植生状況等を踏まえ必要に応じ適切な植栽を行う。
- ④天守閣周辺等の桜は、樹勢の回復、更新を図る。ただし、石垣等遺構に近接したものは原則撤去する。
- ⑤倒木等の恐れのある樹木の撤去等を行い、来園者の安全を確保する。
- ⑥中心市街地における貴重な緑地として、市民や観光客の憩いの場所となるよう、適切な維持管理に努める。

◇ビューポイントの設定

- ①他都市から新幹線で福山市を訪れた際に J R 新幹線ホームから天守閣への眺望を確保（南側より）
- ② J R 福山駅北口から天守閣への眺望を確保（南東側より）
- ③福山城東側登口から天守閣への眺望を確保（東側より）
- ④城見町から天守閣への眺望を確保（北東側より）
- ⑤福寿会館から天守閣への眺望（北側より）
- ⑥福山城北側駐車場から天守閣への眺望を確保（北西側より）
- ⑦ふくやま美術館から天守閣への眺望を確保（西側より）
- ⑧県立博物館前プロムナード周辺から天守閣への眺望を確保（南西側より）

◇伐採実績

場内の樹木の整備も実施した。樹木が生い茂り、お城が見えない状態にあった。また、根が張り石垣が崩れるなど反対する声もあったが、大多数の市民か

  	ら好評を得ている。 ・樹木調査本数：791 本、伐採本数：283 本、伐採割合：約 36% 【主な質疑応答】 Q 2018（平成 30）年 3 月策定「史跡福山城跡保存活用計画」、2018（平成 30）年 4 月策定「福山城公園（史跡福山城跡）樹木整備計画」、2020（令和 2）年 10 月策定「史跡福山城跡整備基本計画」は、福山城築城 400 年記念事業「令和の大普請」に向けての計画か伺う。 A そうです。2018（平成 30）年度から 2022（令和）年度を第 1 期として進めてきた。 Q 城跡内の樹木の伐採は歴史的・自然的環境の保全からハードルが高いと思われるが、どのような議論や専門家の意見があったか伺う。 A 繁茂状態であり、市長のトップダウンでもあった。専門家からも「お城は見晴らしが良くなければならないもの。そもそも築城時に樹木はなかった。後期に植樹されたと考えられる」。ということで大方反対はなかった。 Q 城泊について伺う。 A 観光庁のインバウンドの取組として城泊、寺泊を推奨しており、福山市として参加、観光アドバイザーに月見櫓に宿泊いただいた(22 年 10 月)。天守、湯殿もある。福山城は宿泊施設が作れないエリア、宿泊事業を担う事業主。大津城でも城泊しているバリューマネジメントにノウハウを提供いただいた。検討している段階である。 Q 城周辺の建物の制限、条例について伺う。 A 400 年に向けて、天守の東側にマンションがある。西側は高さ制限を掛けているが東側はなかったのでマンションが建った。徐々に高さ制限の検討をしたい。
本 市 へ の 反 映 (意見・課題など)	【加藤学】 注目すべきは思い切った樹木伐採整備、天守外壁修復、ライトアップである。お城は貴重な歴史的文化的財産であると同時に素晴らしい観光資源である。そして天守はそのシンボルであり、かけがえのないまちのシンボルでもある。観光客にとっても市民にとっても、どこからでもいつでも綺麗な天守への眺望の確保が望まれる。 【柴田敏光】 福山市の令和の大普請プロジェクトについて調査を行った。

本市と親善都市として交流をされている福山市は、同じお城を活かしたまちづくりが行われている。

福山市は、お城のリニューアルを行い復元として鉄板張りを復元し、またライトアップ整備を行っている。

また博物館のリニューアルも併せて行われた。

本市もお城リニューアル、城内の資料館の整備を行っているが、福山市は幅広く寄付を募って行われている。個人で7, 400名、団体・企業が260団体で11億5千万円を超える寄付を集めて行われている。

本市も幅広い寄付をお願いした方が、岡崎城に対しての思いも強くなるのではないかと考える。

熊本城は、一口一万円で名前札が城内に展示され入館できる特典も付けて寄付を募っている。

城への関心が強い方が多くみえると考えるので、そうした手法を活用すべきである。

また、市内どこからもシンボルであるお城が目に見えるように、伐採、伐根も思い切って行われているので、本市も参考すると良いと考える。特に石積みのはらみの出ているところは早急の検討をするべきである。

夜間ライトアップに合わせ、明かりの祭典として1500円の入場料を設定して魅力あるイベントが好評となっており、本市も収入減に繋がるので工夫するべきである。

城泊として隅櫓にて、食事つきで城内貸し切りという企画も行われるということで、2名一泊100万円で設定されているが、多数の予約が入るということである。

本市も検討することを強く要望する。

【井村伸幸】

築城400年を契機に、福山城の改修事業に着手されており、場内の資料整備も併せて行われたとのこと。天守が博物館として登録されているのは「福山城」と「長浜城」しかないとのことで、場内は博物館としての機能を有している感じがあった。特に、一般に見受けられる歴史資料の展示に加え、火縄銃や一番槍レースなどの体験コーナーや実際の重さを再現したレプリカの槍に触れることができるなど見て・触れて・体感することで、よりその時代に関心を持ってもらうことのできる点は岡崎城や家康館にも取り入れてはと考える。

また、市民はじめ関係企業など幅広い寄付により改修が実現できたことから、市民愛・郷土愛を感じることができた。さらに、世界的な照明デザイナー監修による夜間ライトアップにより、福山城を核とした夜間の賑わいにも取り組まれており、観光行政の参考とするべき点も多く感じられた。

そして、もう一度訪れてみたいと感じられることは、本市の今後の観光行政

にも参考にすべき点と感じた。

【加藤嘉哉】

令和の大普請プロジェクトとして築城 400 年にあたる福山城の改修事業を行い、天守北側外壁を鉄板張りに復元的に整備し、博物館の展示リニューアル、ライトアップも行い、非常に見ごたえのある城になっている。福山駅前の好立地もあり、福山城目当ての観光客も非常に多いことからプロジェクト実施の効果を感じることができた。本市においても、大河ドラマ「どうする家康」を契機に岡崎城・大河ドラマ館をリニューアルしている。多くの観光客が本市を訪れてくれることを期待するところである。

【佐藤哲朗】

令和の大普請プロジェクトで福山城の外観としては、北側鉄板張りを復元し、アピールポイントとしていることや、城内の展示内容も見ただけではなく、体験できるコーナーも用意されており、幅広い層の方が楽しめるものとなっていた。特に、夜間のライトアップでは、城壁ごとにプロジェクションマッピングの内容を変えて、来場者を飽きさせない工夫や光の触れると色が変わる ovoïdo(卵体形)など大変魅力的なものとなっていた。

「どうする家康」が放送される 2023 年のみならず、持続的にお客様に喜んでいただけるコンテンツを検討していく必要があると考えており、アイデアのひとつとして大変参考になる内容だった。

視 察 者	加藤学・柴田敏光・井村伸幸・加藤嘉哉・佐藤哲朗
視 察 日 時	令和5年1月12日(木) 13時30分～15時00分
視 察 先・概 要	京都府京都市 ・人口:1,450,660人 ・世帯数:730,410世帯 ・面積:827.8km² ・京都府南部に位置し、京都府の府庁所在地であり政令指定都市である。11の行政区から成り、大阪市・神戸市と共に京阪神大都市圏における中心都市。794年の平安遷都から1869年の東京奠都まで1000年以上にわたり日本の首都であった。
視 察 内 容	京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」について
選定理由(目的)	本市においては、岡崎西尾地域広域ごみ処理施設整備事業が進められており、また市議会においても、ごみ減量推進特別委員会を設置し、本市のごみ減量への取組を推進する中、京都市南部に新たに建設されたクリーンセンター環境学習施設を視察し、ごみ減量や分別、環境対策についての取組を参考にする
岡崎市の現状と課題	分別回収を進める中、ごみ減量については、まだまだ取組が進んでおらず、クリーンセンターにおいても見学コースはあるものの小学生が環境やごみ処理について楽しく学べる内容とは言い難く、将来、ごみ処理問題に直面する子ども達にも、ごみ処理や環境について楽しく身近に学べる施設も必要であると考え
視 察 概 要	【施設概要】 ・令和元年9月稼働開始 ・政令市初となる、生ごみ等を発酵させて発生したメタンガスを活用する「バイオガス化施設」に加え、大型ごみなどを破砕して資源となる鉄やアルミニウムを選別回収する「選別資源化施設」を併設 ・プラント概要 ■焼却施設 ・焼却能力:500t/日 ・炉数:250t/24h×2炉 ・発電設備:最大14,000kw ■バイオガス化施設 ・処理能力:60t/日(30t/日×2系統) ・処理方式:メタン発酵 ・対象ごみ:燃やすごみ ・発電設備:最大1,000kw ■選別資源化施設 ・処理能力:180t/6h(破砕140t・切断40t) ・処理方式:破砕、切断 ・対象ごみ:大型ごみ、持込ごみ、(粗大ごみ、弾性ごみ) 【設置の背景】 ・焼却施設を建替えして使用していたが、新工場建設にあたり、平成19年3月に地元住民との話し合いを経て、建設計画を策定し、環境教育のメッカを目指して歩いて気軽に訪問できる環境学習施設をクリーンセンターに併設 【主な質疑応答】 Q1. 市民の声(評価・要望等)について A1. 小学校の見学受入をしているが、非常に好評。人気が高く見学が抽選となり、なかなか見学ができないとの声もある。ユニバーサルシート(バリアフリートイレ用の介助シート)を設置して欲しいとの要望があり、設置した。 Q2. 過去の見学者の中に、障がいの方はいたか？また対応方法は？ A2. 聴覚障害の方が来館された事例があり、手話通訳者が対応し、見学をしてもらった。 Q3. バイオガス化施設のメリットは？ A3. 焼却ごみの減量を図ることができる。焼却ごみの水分が減ることにより燃えやすくなり、焼却施設の熱回収率(発電量)が向上する。発生したバイオガスで発電ができる。 Q4. ごみの持ち込みは有料か？無料か？ A4. 無料です。現時点では、有料化は考えていない。

【加藤学】

2022年(第3回)生活者の環境危機意識調査の結果発表が出された。自国内の環境問題で危機的だと思う問題1位は「気候変動」、世界各地でみられる異常気象を懸念するものだ。環境問題に対する意識はこれまでにない高まりを見せている。「環境学習施設さすてな京都」は、これまでのクリーンセンターのイメージが一新された施設であった。処理施設の見学のみならず環境面の幅広いテーマが取り扱われ、楽しみながら学べる、環境施設は大いに参考となるものだ。

【柴田】

京都市は、南部クリーンセンター環境学習施設さすてな京都について調査を行った。本市も小学生をクリーンセンターにて環境学習等は行なわれておりますが、京都市のクリーンセンターでは、子どもたちがゲーム感覚で行える体験、また遊び感覚で行える体験施設である。見学もかなりオープン化されており、市民の皆さんにとっても理解しやすく環境について前向きにとらえることができる施設と感じた。本市もごみを回収して処分だけでなく、市民で個人個人が対応できることを理解していただける体験などを取り込んでいく必要があると考える。特に本市は、今年10月より持ち込みは有料化するので、市民に受け入れていただける工夫も必要と考える。京都市はまだ有料化はされないようである。

【井村】

京都市南部クリーンセンターには「ごみ焼却施設」と生ごみ等を発酵させて発生したメタンガスを活用する「バイオガス化施設」や大型ごみなどを粉砕して資源となる鉄やアルミニウムを選別回収する「選別資源化施設」があり、加えて「環境学習施設」も併設されている。ごみ処理施設に併設されていることもあり、焼却炉やごみ発電、バイオガス化施設などごみ処理に関する施設やその工程を間近に見るだけでなく、昨今問題となっている地球温暖化対策や生物多様性、再生可能エネルギーなどについて、あらゆる世代が楽しく学べる施設であると感じた。特に、要所要所でクイズや自家発電について体感できるような工夫が凝らされており、見学の最後には、クリーンセンターで出た不燃物やごみの焼却により生じた灰を埋め立て処分する埋め立て用のダム「エコランド音羽の杜」をパネルで見せ、ダムが徐々にごみで埋まっていくことに対し、ごみの減量に取り組む必要性を自ら考えるようにしている点は、学ぶべきところと感じた。

本市でも中央クリーンセンターにおいて焼却炉などの見学は可能であるが、体感して学ぶことができないため、今後、西尾市・幸田町と共同で新設する広域ごみ処理施設においては、このような体感できる環境学習施設の併設が必要と考え提言していきたい。

また、合わせてごみの出し方で地域で課題となっている外国籍の方たちにもこのような体感施設を設けることで理解を深めることができるのではと感じた。

【加藤嘉】

環境学習施設さすてな京都の見学コースを案内してもらい、クイズ形式でごみ処理方法を学べたり、自ら自転車のペダルを漕いで発電する体験もでき、ごみ処理や環境への取組について楽しく学ぶことが出来る。市民が気軽に訪れることができる施設になっていることから、多くの見学希望者があり抽選で見学を行っているほどの盛況とのこと。今後、ごみ減量、脱炭素社会等の環境問題は避けては通れない課題であり、より身近に、自分ごととして考えることが出来る施設は必要であるとする。本市においても、中央クリーンセンターの見学コースを、より充実した内容にするいい機会ではないかと考える。

【佐藤】

環境学習施設さすてな京都は近隣から住民も活用できる教育施設も併設して欲しいとの要望を受けて設置されていた。体験やARなどもあり子供でも楽しんで学べる大変有効な施設となっていた。本市の中央クリーンセンターも見学を受け入れているが、更に工夫を折り返すことで、子どもたちに環境を守るためのごみ減量についてしっかりと受け止めていただけるよう、検討する必要があると感じた。

また、京都市南部クリーンセンターでは自動選別された生ごみを活用してメタンガスを発生させ、発電に活用するなど、CO2削減にも取り組んでいた。

本市においてもごみ減量やCO2削減に取り組むにあたり、そのひとつの手法であることから、費用対効果も念頭に、十分に検討していただきたい。